

事業評価票

284	言語能力向上推進拠点校事業 (教育庁指導部／一般会計)	事業開始	平成 23 年度
		事業終期	平成 28 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか	
○ 学習指導要領の改訂に伴い、各教科等で言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等の育成や主体的に取り組む態度を育むことが求められる。 ○ 説明や討論等の言語活動を取り入れた授業の実施や古典文学の音読や暗唱など、社会生活に役立つ言語の技能の育成や、伝統的な言語文化の理解を重視した具体的な取組を推進する。	
根拠法令等	教育基本法、学校教育法、学習指導要領

2 どのように取り組み、どのような成果があったか

【取組】

- 都内公立学校（小・中・高・特支）を指定した。
H23年度 65校 H24年度 130校 H25年度 195校
H26年度 195校 H27年度 130校 H28年度 65校
- ねらいに応じた言語活動の充実や読書活動の取組を推進した。研究発表会を開催し、他校の教員や保護者等に取組内容について普及・啓発を図った。

【成果】

- 「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」によれば、言語活動や読書等に関する下記の値が向上しており、取組が全校に広がったことが分かる。

評価結果の概要（評価の観点）	全都平均正答率			
	小学校		中学校	
読み解く力に関する内容（国語）	H23	H28	H23	H28
	62.4%	→ 63.9%	50.6%	→ 59.7%
質問内容				
授業等で思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実を図った （「よく行った」、「どちらかといえば行った」の合算）	H24	H28	H24	H28
	91.0%	→ 94.1%	88.2%	→ 91.4%
一斉読書の時間を設けた （「毎日」、「週に複数回」、「週1回」の合算）	H23	H28	H23	H28
	77.1%	→ 82.5%	77.5%	→ 81.5%

3 どのような課題や問題点があったか

○ 相手の意図や考えを的確に理解し、自らの考えや意見を論理的に説明したり、反論・説得したりするなど、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための言語能力を一層育む必要がある。

4 局として、事業をどうしていきたいか

拡大・充実

見直し・再構築

移管・終了

その他

○ これまでの拠点校での取組や成果を踏まえ、今後は各学校における独自の取組として言語能力向上に係る授業を展開していくため、事業を終了する。

歳入	27年度決算額	— 千円	歳出	27年度決算額	64,202 千円
	28年度予算額	— 千円		28年度予算額	35,069 千円
	29年度見積額	— 千円		29年度見積額	— 千円

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか			
○ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、引き続き言語能力を育成していくことが重要である。 ○ 拠点校事業で得た成果を生かしながら、今後は各学校がそれぞれの特色を生かし、独自の取組として授業を展開していくことが必要である。			
6 29年度予算で、どのように対応したか			
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
○ これまでの取組により一定の成果が得られたことから、局案どおり本事業は終了とし、今後は本事業の成果を活用し、各校の取組を促進することとする。			
歳入	29年度予算額	— 千円	
歳出	29年度予算額	— 千円	